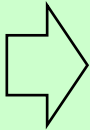


ほ場の大区画化と地下水位制御システムの導入で省力化 ～大石 哲也氏（静岡県菊川市）～

経営体の概要

事業当初：平成11年度
基幹作物：主食用米5.6ha,
小麦3.1ha,
キャベツ0.1ha
経営面積：8.8ha,



現在：令和4年度
基幹作物：主食用米11.5ha, もち米0.2ha,
飼料用米2.0ha, 小麦4.0ha,
キャベツ0.2ha
経営面積：17.9ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

農地は10a区画で大型機械を導入するには区画が狭小で、農道の幅員も狭く、かつ農道に接していない農地もあったため、本経営体为中心となり大型機械に対応した、ほ場の大区画化、5m幅の道路整備、全ての農地が農道と接するように整備を推進した。
幹線用水路の老朽化により漏水、溢水が発生し下流側の地域ではほ場への用水の取り入れに支障をきたしていたが、国営事業により用水路を改修したことで、用水不足が解消された。

営農改善のポイント

①経営規模の拡大

農地は10a区画で大型機械を導入するには区画が狭小で、であったため、平成19年度に県営ほ場整備事業を実施し、本経営体为中心となり大型機械に対応した、大区画化を推進し、地域の農家の離農に伴い農地の受け手として農地を集積し、事業前の5.6haから17.9haへ経営面積を拡大した。（本経営体は父親から平成28年に農業を継承）



大区画ほ場

②省力化

ほ場整備事業により10a区画のほ場を1ha区画に大区画化。暗渠施工による排水改良とあわせて、水田畑利用を見据えて開水路での地下かんがいを行うために地下水位制御システムをメーカーと改良。大型機械の走行と、ほ場への搬入を容易にするため県と調整しほ場の周りを額縁状に5m幅員の農道を配置。これらの整備により従前に比べ作業時間は節減された。
また、水稻栽培は乾田直播栽培(4.5ha)を導入し、移植栽培と併用し、早生晩生品種を組み合わせることで、水稻の代掻き・田植え期間(4月～6月)、収穫期間(8月～10月下旬)が拡大。作付け期間が拡大したことで農作業のピークがカットされ、栽培面積の拡大が可能となった。



拡幅した農道

③流通・販売の工夫

米は系統出荷が全体の25%、県内米穀業者25%、個人販売25%を出荷し、米粉業者へ25%出荷することで米の販路を分散し販売先を確保している。また、生産量の50%を業者へ出荷することで出荷後に一括で代金が支払われるため資材費等の支払いを円滑化している。さらに、早場米の取引価格が高いことに着目し、平成11年から超早場米の栽培を行っている。



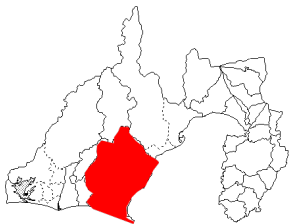
地下水位制御システム

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：静岡県 島田市、焼津市、掛川市、
藤枝市、袋井市、御前崎市、
菊川市、牧之原市、吉田町

受益面積：7,450ha
事業期間：平成11年度～平成29年度
事業目的：用水改良
主要工事：取水工 1箇所、頭首工 2箇所、
用水路 L=29.8km、 末端用水路 L=74.2km

位置図（静岡県）



大井川用水地区

＜問い合わせ先＞
関東農政局
農村振興部農地整備課
電話：048-600-0600

（令和4年度調査時点）